

## ビジュアル版『とやまの和船』作成事業

和船建造技術を後世に伝える会

### はじめに

当会は、廃絶が危惧される木造和船とその建造技術の記録・収集、及び調査・研究を通して木造船そのものと、その建造技術とを後世に伝承していくことを目的に、平成 16 年度より 10 年間にわたり活動を行ってきた。その成果は 4 冊の報告書として刊行し、広く一般に周知・普及してきた。

ただ、調査報告書の形式ではとっつきにくさがあり、和船とその建造技術の普及と伝承のため、より一般向けのものとしてジュニア版の冊子を刊行する必要性を感じている。そこで図面や写真、イラストを充実させた『ビジュアル版とやまの和船（仮）』を刊行し、富山県内を中心とした図書館、博物館等に頒布するほか、県内の小中学校に頒布し、これまでの調査成果の公開に努めるため、今回の事業を実施した。

### 事業の概要

初年度である平成 26 年度は、ビジュアル化に向けてこれまで蓄積してきた図面や写真など調査成果の取りまとめを行った。また、和船についてよりわかりやすく提示する方法として、和船模型の活用を考え、網取り船として長く富山湾の定置網漁を支えながら、すでに現存しない氷見型ドブネの船尾部カットモデル（1/2 スケール）を製作した。合わせて補足調査として石川県能登町と同じく石川県輪島市に現存する能登型ドブネの現地調査、神通川のササブネの実測作業などを実施した。



輪島市曾々木海岸のドブネ



神通川のササブネ

### 『ビジュアル版とやまの和船（仮）』について

本事業の眼目である『ビジュアル版とやまの和船（仮）』の作成については、次年度以降の実施となる。今年度は、使用する写真や図版の選定、編集作業を行ったところであり、いまだ詳細については未定だが、できるだけ写真や図を中心とした紙面構成となるよう心掛けたいと考えている。

次ページ以降に示したのは、当会が作成した和船の解説パネルの一例である。このように写真や図面を多用することで、船と船が支えた人びとの暮らしを伝える一助としたい。